

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(11月)
～ 設備投資を取り巻く環境は良好 ～

発表日：2006年1月16日(月)

(No. J - 208)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.6	1.7	▲8.4	3.4	5.9	▲0.3	▲0.3	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.6	2.6	0.5	▲7.3	1.1	4.0	0.0	▲0.3	1.3	5.7	▲0.2	0.2
	7-9月	▲1.7	0.5	3.6	0.7	▲5.8	▲1.4	0.3	0.1	1.7	5.8	0.4	1.3
04	11月	0.8	5.6	▲2.6	▲8.3	1.5	10.0	0.0	▲0.5	0.1	9.5	0.0	▲2.5
	12月	▲1.4	1.2	0.7	▲9.9	▲5.1	▲0.3	0.0	▲0.4	0.3	9.3	▲0.1	▲2.6
05	1月	3.1	1.6	2.7	▲9.0	6.8	5.3	▲0.2	▲0.2	▲0.3	9.4	1.1	▲1.5
	2月	▲1.7	1.8	▲0.7	▲8.1	▲0.4	7.2	0.0	▲0.1	0.3	9.7	0.0	▲1.5
	3月	▲1.2	1.4	▲0.5	▲8.3	0.1	5.2	▲0.1	▲0.4	0.4	7.1	0.0	▲1.5
	4月	4.3	2.6	2.5	▲6.8	5.7	5.6	▲0.1	▲0.8	▲0.8	4.9	0.0	▲1.5
	5月	▲2.3	2.9	▲3.4	▲9.4	▲7.5	4.4	0.3	0.0	2.3	5.8	▲0.2	1.4
	6月	0.6	2.3	3.0	▲5.8	2.6	2.3	0.0	▲0.1	0.5	6.3	▲0.1	0.8
	7月	▲1.6	▲1.0	0.8	▲3.0	▲4.4	▲2.9	0.0	0.0	0.0	5.5	0.0	0.8
	8月	0.4	1.7	3.6	0.7	▲2.8	0.1	0.1	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8
	9月	0.1	1.0	▲1.2	4.5	4.2	▲1.0	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3
	10月	1.4	2.4	2.2	7.1	▲2.4	▲2.9	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3
	11月	0.9	2.5	0.0	10.0	5.5	0.9	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

○ 高水準の稼働率と生産能力指数の上昇

11月の稼働率指数は前月比+0.9%と4ヶ月連続の上昇となった。12月の生産予測指数が前月比+4.7%と高い伸びとなっていることから考えると12月の稼働率も上昇が見込めるだろう。稼働率は緩やかな上昇傾向を続けている。水準でみても、消費税引き上げ前の駆け込み需要で好調だった1997年前半とほぼ同程度の高い水準にある。

業種別にみると、価格維持のための減産が汎用品を中心に続いている鉄鋼業では、稼働率は依然として低下傾向にある。もっとも、こうした素材業種の稼働率低下が全体に与えている影響はそれほど大きくはなく、その他の加工業種の稼働率上昇の影響が勝っている状況にある。特に、一般機械や輸送機械では上昇傾向が続いている結果、足元では稼働率はかなりの高水準にある。どちらの業種も内外の好調な需要に対応しきれず、生産能力が足りないほどだ。また、電子部品・デバイスに代表されるIT関連財も、輸出の回復と在庫調整の終了を背景として2004年末をボトムに稼働率の上昇傾向が続いている。後述の通り生産能力が急上昇しているため、稼働率の上昇ペースは相対的に緩やかだが、今後も生産回復を背景にIT関連財の稼働率は上昇していくと予想される。

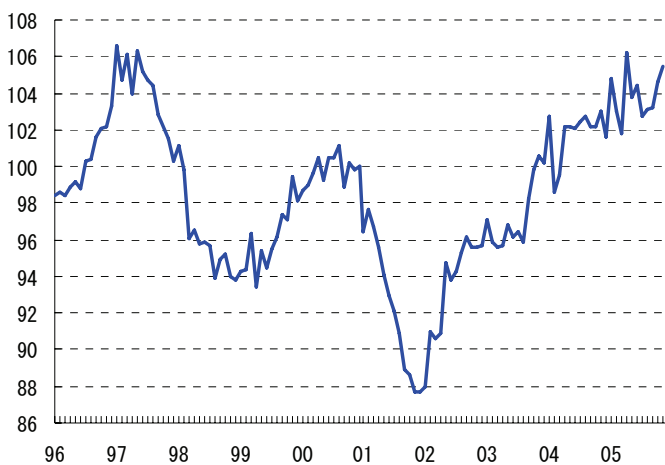
足元で設備投資が好調な推移を続けていることの要因の一つには、こうした高水準の稼働率が能力増強投資に繋がっていることもある。実際、生産能力指数は前年比+0.5%と3ヶ月連続で増加し、増加傾向が

徐々に明確になってきている。

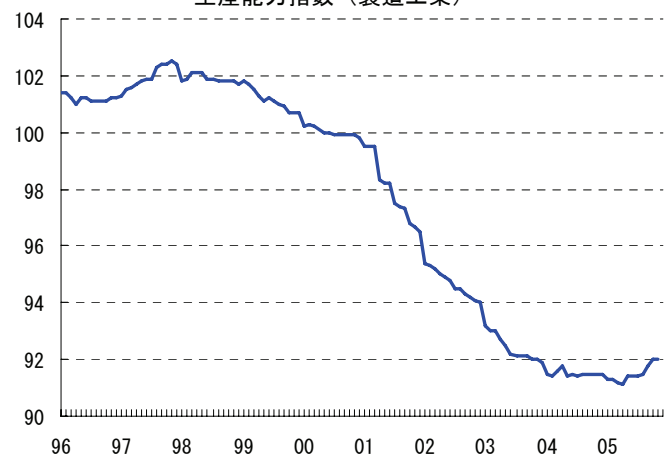
なかでも目立つのが、一般機械と電子部品・デバイスだ。前述の通り、一般機械では稼働率水準は極めて高く、フル稼働に近い状態にあるため、仮に今後生産を拡大しようとするならば能力増強投資を行って生産能力を拡大する必要がある。今後も、生産が回復を明確化させてくると予想されるなか、能力増強投資も増加が続くとみられることから、生産能力指数は緩やかに増加を続けていくと考えられる。また、電子部品・デバイスでは、競争力を維持していくために行った過去の投資が生産能力に結びついていることに加え、世界的なIT関連財在庫調整終了や旺盛なデジタル家電需要等によって投資意欲が徐々に回復していることなどもあり、生産能力は大幅に増加している。

原油高を乗り越えて好調が続く企業収益、高水準の稼働率、バランスシート調整の終了等、設備投資を取り巻く環境は非常に良好だ。2005年度下期、2006年度 of 設備投資計画が強めであることなども考慮すると、設備投資の好調さはしばらく持続する可能性が高い。

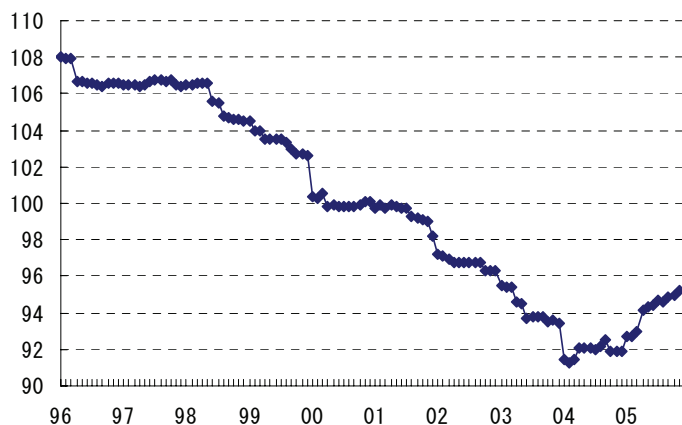
設備稼働率 (季調値、指数)



生産能力指数 (製造工業)



生産能力指数・一般機械 (季調値、指数)



生産能力指数・電子部品・デバイス (季調値)

